明日に翔ぶ

新幹線が今秋いよいよ走り出す。「新潟の転換期」と言われる中で、新幹線がもたらす光と影は微妙に測りがたい。

しかし、そんな不透明さの中にも明るさはある。それは、自分なりに明日へ向かってはばたく多くの人たちがおり、彼らのはばたきがいつも新しい時代のエネルギーとなるからだ。

ここに紹介する四人も…

三年後はプロのマウンドに

古川利行さん（18歳・北越商高三年）

県の高校球界から久し振りに有望投手が誕生した。

この一、二年、野球好きな市民の関心を一身に集め、昨春の北信越大会では、古川見たさに小針球場は満員の観客で膨れあがった。

招待試合で対戦した早稲田実業の和田監督は「新潟にこんないい投手がいるとは」と、彼を絶賛した。

厚い胸、十分に走り込んで鍛え上げた強じんな足腰からホオをプッと膨らませて投げ込む球は重く、コーナーをよぎる。プレートさばきもうまく、投手として天性のセンスを備えている。

夏の大会後、毎日十五キロのランニングと投手に一番大事な瞬発力を生むダッシュに励み、じっと力を蓄えている。

注目の卒業後の進路について「日本鋼管に入り、後楽園のマウンドを目指します。三年後に子供のころからの夢だったプロ野球の投手になります」。きっぱりと言い切った。

夢…新潟でリサイタルを

関谷直美さん（26歳・白山浦）

第十六回新潟県音楽コンクールピアノ部門で、初出場で最高賞の知事賞に輝いた。

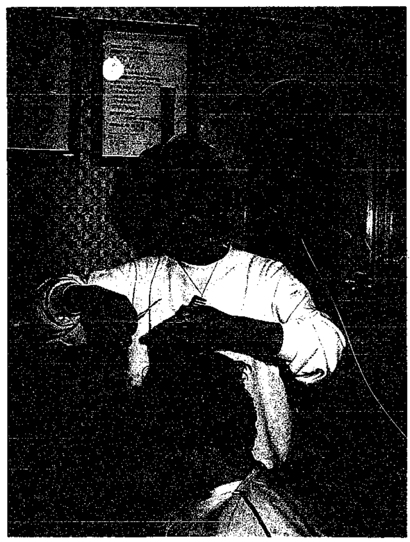
生粋の新潟っ子。歌好きのご両親が、「伴奏でも弾いてもらえたら」と思い、幼稚園の時、ピアノを習わせた。

高校までは新潟で過ごし、東京の大学へ進学。ピアノを専門に学び、卒業後は半年間ドイツへピアノ留学も。

「同じ曲でも弾く人によって全く違うものになります。弾き手の性格や持ち味が出てくるんです。自分の力で一つの曲を仕上げていくことが、ピアノの魅力です」

白いけん盤の上を細い指先が踊る。現在は高校で音楽の講師を務める。家庭では、テキパキと家事をこなす主婦でもある。

「これからも新潟で音楽活動を続けていきます。コツコツ勉強して積み重ね、自分のリサイタルを新潟で開くことが夢です」



独創性、美しさを形に

小島雅子さん（29歳・白山浦）

スリムな指先に躍動感がみなぎり、手さばきも鮮やかに女性の髪型が美しく仕上っていく。美容師歴十年の技術だ。

昨年の県美容技術選手権大会・ヘアー競技の部で見事優勝を飾った。「独創性、技術性、そして美しさを競うコンクールは魅力いっぱい」と目を輝かせる。職場では、手入れがしやすくその人らしさを出せるヘアースタイルを作ることを心掛けているという。しかも直感を生かしながら、お客の共感するものを。

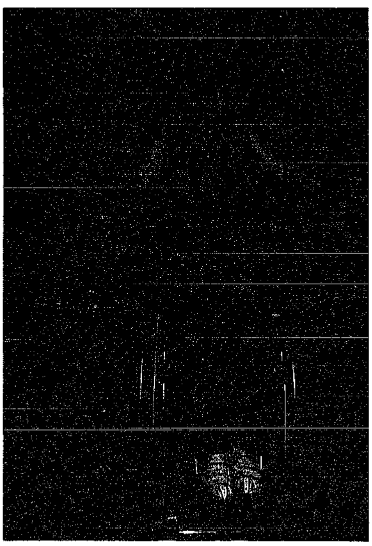
「この道は流行が早いので日々勉強」。余暇もつい美容関係のことに時間を費やしてしまうそうだ。

「これまでの自分は満足度八〇%」「十年を一区切りに、自分にとって美容師とは、をもう一度考えたい」という。

これからも技術を磨きながら美しさを求める彼女に、新潟女性の目が注がれるだろう。

車イスのバスケットボール　ナイス、ショット！

大杉広明さん（34歳・松浜町）



「車イスのバスケットボールチーム」―。大杉広明さんは、五十四年八月、作業中電柱から転落、下半身不随となる。「人一倍動くのが好きな私が突然の事故で、もうどうしたらよいか……。当たり散らしていた」という。

約一年間病院でリハビリテーションを行い、昨年の七月「家に閉じこもっていてはダメ。スポーツをやらなければ」と新潟で初の「車イスバスケットボールチーム」を結成。

現在、会員七名、毎週三時間半、鳥屋野総合体育館で汗を流している。アーチェリーも筋力養成のために最近始めた。

「国際障害者年に色々な人が理解を示してくれた。これがだんだん広がってくれれば」と期待する。家には、奥さんの春江さん（三十一歳）と二歳になる女の子がよき協力者である。「女房には頭が上がりませんよ」と笑う。

謹賀新年

昭和五十七年一月一日

新潟市議会議員

新政クラブ　日本社会党議員団（副議長）　市政クラブ（議長）　日本共産党議員団　同志クラブ　公明党　民社党議員団　自由クラブ　政友クラブ　無所属

伊藤稔　川島三勝　神田隆吉　笹川三　高野一　中原八郎　野沢寛郎　藤塚仁一郎　藤巻キソ　松原藤衛　若林忠蔵　渡辺惇夫　大和吉男　大桃十三雄　阿部夬一　山田武雄　滝沢正雄　羽田秀男　細野博　佐々木武夫　服部信吾　加藤大輔　村山勇一郎　平田甚　大野久　氏田進　仁多見一彦　伊藤実　須田清　佐野誠一　山田修一　高橋弘之　渋谷明治　今井ヨシイ　大石一郎　丸山富保　小山徳一　河野弘　小林茂樹　長谷川孝幸　佐々木博英　土屋利信　小林茂雄　佐々木茂　田中実　島田繁雄　倉田勇吉　吉川平一　橋本仁　斉藤定雄　早福卓